

山の歌集

DWVOB会編

獨協中・高等学校校歌

Moderato



1. みどりはふかしーじよーせいの
 2. めてにははふかぎすーしきしまの
 3. ああきゆうひゃくのーけんだまんじ



ちーりをよそなるめじろだいな
 やーまをとしそまねのさくらぼたえ
 あーおげそうしゆのはなふたえ



まなびのほかのーかせもたかうくの
 ゆんでにうかなぎすーせいおいおかうの
 ああきゆうひゃくのーけんだんじ



わがこうるたてりーぎぎとのしえてだえ
 口ーールぱりーのははなふたえ
 あーおげりそうのははなふたえ

【現代語訳】

1. 緑の深い 皇居の西の

汚れけがと無縁な目白台

学問の花の香りも高く

我が校は建つ すつくと高く

2. 右手に かけける 日本こころねの心根

大和の国の 桜花

左手に かけける 西欧の精神

月桂樹の 花の枝

3. ああ 九百の健やかな少年たちよ

仰ぎ見よ 東西を結ぶ 両手の花 二枝を

ああ 九百の健やかな少年たちよ

仰ぎ見よ 世界を結ぶ 理想の花 二枝を

獨協小唄

1. 獨協よいとこだれ言うた
高くそびゆる丘の上
粹な学生がすむという
一度は惚れてみたいもの
2. 腰のカバンにすがりつき
連れてゆきゃんせ獨協へ
連れていくのはよいけれど
オンナの座る席はない
3. 座る席がないならば
せめてアナタのひざの上
ともに許した仲ならば
天野の校長も許すだろ

アルプス 1 万尺

1. アルプス 1 万尺小檜の上で

アルペン踊りを踊りましょう(へイ)

ランラララ ララララ ランラララ ラララ

ランラララ ララララ ラララララ

2. きのうみた夢でっかい小さい夢だよ

蚤がリュックしょって富士登山(へイ)

ランラララ ララララ ランラララ ラララ

ランラララ ララララ ラララララ

3. お花畑で昼寝をすれば

蝶々が飛んできてキスをする(へイ)

ランラララ ララララ ランラララ ラララ

ランラララ ララララ ラララララ

4. 1 万尺にテントを張れば

星のランプに手が届く(へイ)

ランラララ ララララ ランラララ ラララ

ランラララ ララララ ラララララ

山の友よ

1. 薪割り 飯炊き 小屋掃除
みんなで みんなで やったっけ
雪解け水が冷たくて
苦勞したことあったっけ
今では遠く みんな去り
友をしのんで 仰ぐ空
2. 幕営 グリセー 岩登り
みんなで みんなで やったっけ
岩のなだれをひきおこし
苦勞したことあったっけ
今では遠く みんな去り
友に写真に眺めている
3. 堅炭、八峰、ジャンダルム
皆で皆でやったっけ
ルンゼで雨にたたかれて
苦勞したことあったっけ
今では遠く皆去り
友の姿を夢に見る
4. 前傾 外傾 全制動

みんなで みんなで やったっけ
雪が深くて ラッセルに
苦勞したことあったっけ
今では遠く みんな去り
友に便りの 筆をとる

5. 唐松萌ゆる 春山を
みんなで みんなで やったっけ
思わぬ雪に ワカン履き
苦勞したことあったっけ
今では遠く みんな去り
山よお前は わが心
山よお前は わが心

北帰行

1. 窓は夜露に濡れて 都すでに遠のく
北へ帰る旅人一人 涙流れてやまず
2. 夢はむなしく消えて 今日も闇をさすらう
遠き思いはかなき希望 恩愛我を去りぬ

琵琶湖周遊の歌

1. 我はうみの子 さすらいの 旅にしあれば しみじみと
昇るさぎりやさぎ波の 滋賀の都よ いざさらば
2. 松は緑に砂白き 雄松が里の処女子は
赤い椿の森陰に はかない恋に泣くとかや
3. 波の間に間に 漂えば 赤い泊火 懐かしみ
行方定めぬ波枕 今日は今津か長浜か
4. 瑠璃の花園 珊瑚の宮 古い伝えの竹生島
佛の御手に抱かれて 眠れ処女子やすらげく

小さな日記

1. 小さな日記に つづられた
小さな過去の ことでした
私と彼との 過去でした
忘れたはずの 恋でした
2. ちょっぴりすねて 横むいて
黙ったままで いつまでも

やがては笑って 仲なおり
そんなかわいい 恋でした

3. 山に初雪 降るころに
帰らぬ人と なった彼
二度と笑わぬ 彼の顔
二度と聞こえぬ 彼の声

4. 小さな日記に つづられた
小さな過去の ことでした
二度と帰らぬ 恋でした
忘れたはずの 恋でした

いつかある日

1. いつかある日 山で死んだら 古い山の友よ 伝えてくれ
2. 母親には 安らかだったと 男らしく死んだと、父親には
3. 伝えてくれ 愛しい妻に 俺が帰らなくとも 生きてい
けと
4. 息子達には 俺の踏み跡が ふるさとの岩山に 残って
いると

劍ダンチヨネ節

1. 夢に描いた 劍の山によ
意気と力でね ぶち当たる よかね
2. 劍見るなら 赤谷尾根でよ
大窓小窓にね 三ノ窓 よかね
3. 窓に数々 窓はあれどよ
劍の大窓ね 日本一 よかね
4. ブナでドンと打つ 雪崩れの音はよ
ごついおいらのね 度胸試し よかね
5. 窓をあければ 富山の町がよ
暗い夜空にね 薄明かり よかね
6. ザイル結んで 氷の尾根でよ
仰ぐ劍のね 薄化粧 よかね
7. 遥かに見下ろす 池ノ谷(ダソ)のよ
暗いゴルジュのね蒼氷 よかね
8. どうだ見てくれ おいらの焼けたよ
山の男のね 色香り よかね

シーハイル

1. 岩木の下ろしが 吹くなら吹けよ
山から山へと われ等は走る
昨日は梵珠嶺 (ボンジューネ)
今日また阿闍羅 (アジャラ)
煙立てつつ おおシーハイル
2. ステップターンすりゃ たわむれかかる
杉のこずえの 未練の雪よ
心は残れど エールにとどめ
クリスチャニアで おおシーハイル
3. 夕陽は赤々 シュプール染めて
たどる雪道 果てさえ知れず
町にはちらほら 灯がついた
ラッセル急げよ おおシーハイル

あざみの唄

1. 山には山の 愁(うれ)いあり
海には海の 悲しみや
ましてこころの 花ぞのに
咲しあざみの 花ならば
2. 高嶺(たかね)の百合の それよりも
秘めたる夢を ひとすじに
くれない燃ゆる その姿
あざみに深き わが想い
3. いとしき花よ 汝(な)はあざみ
こころの花よ 汝はあざみ
さだめの径(みち)は はてなくも
香れよせめて わが胸に

新人哀歌

1. いいぞいいぞと おだてられ
死に物狂いで 来てみれば
朝から晩まで 飯たきで
景色なんぞは 夢のうち

2. チーフリーダーは 爺くさい
サブリーダーは 婆くさい
あとのメンバーは エロくさい
メッチェン通れば 頭右

3. 二年部員は 小生意気
先輩なにかと 話好き
地獄の二丁目 山岳部
好んで入る 馬鹿もいる

4. 蝶よ花よと 育てられ
何の苦勞も 知らないで
ボッカ稼業に 身をやつし
泣き泣き登る 雪の山

5. 家へ帰ればお坊っちゃん
山へ入れば 新部員
何の因果でしごかれる
まぶたに浮かぶ 母の顔

6. いわゆるアノコはお嬢さま
おれはしがない 山がらす
月を眺めてあきらめる
笑ってくれるな お月様

俺らの恋

1. 山家育ちの俺らの恋は 恋は恋でも酒持ってこいよ
酒は酒でも俺らの酒は 熱き涙の恋の酒
2. 山家育ちの俺らの恋は 恋は恋でもザイル持ってこいよ
ザイルはザイルでも 俺らのザイルは 心と心の命綱
3. 山家育ちの俺らの恋は 恋は恋でもテント持ってこいよ
テントはテントでも 俺らのテントは 一万尺に張るテ
ント
4. 山家育ちの俺らの恋は 恋は恋でもキス持ってこいだよ
キスはキスでも俺らのキスは 肩にくいこむキスリング

日本全国酒飲み音頭

酒が飲める 酒が飲める 酒が飲めるぞ 酒が飲める 飲めるぞ 酒が飲めるぞ

一月は正月で酒が飲めるぞ 酒が飲める 飲めるぞ 酒が飲めるぞ

二月は豆まきで酒が飲めるぞ 酒が飲める 飲めるぞ 酒が飲めるぞ

三月はひな祭りで酒が飲めるぞ 酒が飲める 飲めるぞ 酒が飲めるぞ

四月は花見で酒が飲めるぞ 酒が飲める 飲めるぞ 酒が飲めるぞ

五月は子供の日で酒が飲めるぞ 酒が飲める 飲めるぞ 酒が飲めるぞ

六月は田植で酒が飲めるぞ 酒が飲める 飲めるぞ 酒が飲めるぞ

七月は七夕で酒が飲めるぞ 酒が飲める 飲めるぞ 酒が飲めるぞ

八月は熱いから酒が飲めるぞ 酒が飲める 飲めるぞ 酒が飲めるぞ

九月は台風で酒が飲めるぞ 酒が飲める 飲めるぞ 酒が飲めるぞ

十月は運動会で酒が飲めるぞ 酒が飲める 飲めるぞ 酒が飲めるぞ

十一月は何でもない けど酒が飲めるぞ 酒が飲める 飲めるぞ 酒が飲めるぞ

十二月はドサクサで酒が飲めるぞ 酒が飲める 飲めるぞ 酒が飲めるぞ

谷川小唄

1. 夜の上野の プラットホーム
可愛いあの娘が 涙でとめる
とめてとまらぬ 俺らの心
山の男は 度胸だめし
トコズンドコ ズンドコ
2. 泣いちゃいけない 笑顔におなり
たかがしばしの 別れじゃないか
可愛いお前の 泣き顔見れば
ザイルさばきの 手がにぶる
トコズンドコ ズンドコ
3. いきなチロルよ ザイルを肩に
行くぞ谷川 ちょいと一ノ倉
仰ぐ岩壁 朝日に映えて
今日はコップか 滝沢か
トコズンドコ ズンドコ
4. 行こうか戻ろか 南稜テラス
戻りゃ俺らの 心がすたる
行けばあの娘が 涙を流す
山の男は つらいもの
トコズンドコ ズンドコ

5. 歌うハーケン 伸びろよザイル
何のチムニー オーバーハング
軽く乗っ越し 目の下見れば
雲が流れる 本谷へ
トコズンドコ ズンドコ

6. 急な草付き 慎重に越せば
やっと飛び出る 国境稜線
固い握手に 心も霧も
晴れて見えるは オキノ耳
トコズンドコ ズンドコ

7. 右に西黒 左にマチガ
中に一筋 西黒尾根を
今日の凱歌に 足どり軽く
かけりゃ土合も はや真近
トコズンドコ ズンドコ

8. さらば上越 湯檜曾の流れ
さらば土合よ 谷川岳よ
またの来る日を 心に誓い
たどる列車の 窓の夢
トコズンドコ ズンドコ

四季の歌

1. 春を愛する人は こころ清き人
スミレの花のような
ぼくの友だち
2. 夏を愛する人は こころ強き人
岩をくだく波のような
ぼくの父親
3. 秋を愛する人は こころ深き人
愛を語る ハイネのような
ぼくの恋人
4. 冬を愛する人は こころ広き人
雪をとかす 大地のような
ぼくの母親

雪山賛歌

1. 雪よ岩よ われらが宿り
俺たちや 町には住めないからに

2. シールはずして パイプの煙
輝く尾根に 春風そよぐ

3. 煙い小屋でも 黄金のご殿
早く行こうよ 谷間の小屋へ

4. テントの中でも 月見は できる
雨が降ったら 濡れればいいさ

5. 吹雪の日には 本当に辛い
ピッケル にぎる手がこごえるよ

6. 荒れて狂うは 吹雪か雪崩
俺達 そんなもの 恐れはせぬぞ

7. 雪の間に間に キラキラ光る
明日は 登ろうよ あの頂に

8. 朝日に輝く 新雪踏んで
今日も行こうよ あの山超えて

9. 山よサヨナラご機嫌よろしゅう
また来る時にも 笑っておくれ

山賊の歌

1. 雨が降れば 小川ができ 風が吹けば 山ができる
ヤッホー ヤホホホ 淋しいところ
ヤッホー ヤホホホ 淋しいところ
2. 夜になれば 空には星 月が出れば おいらの世界
ヤッホー ヤホホホ みんなを呼べ
ヤッホー ヤホホホ みんなを呼べ
3. 肩をくんだら明かりをつけろ
眠いカラスは起こすじゃないぞ
ヤッホ ヤッホホホ 夜明けはまだだ
ヤッホ ヤッホホホ 夜明けはまだだ
4. 天道さまが東に出れば 西の空に雲が すつとぶ
ヤッホ ヤッホホホ おいらは山賊
ヤッホ ヤッホホホ おいらは山賊
5. 嵐が吹けば波が立ち 波を立てば舟は沈む
ウッシ ウッシシシ 人のものは
ウッシ ウッシシシ おいらのものさ
(おしまい)

もずが枯れ木で

1.もずが枯木で鳴いている

おいらは藁を たたいてる

綿びき車は おばあさん

コットン水車も 廻ってる

2.みんな去年と 同じだよ

けれども足んねえ ものがあ

兄さの薪割る 音がねえ

バッサリ薪割る 音がねえ

3.兄さは満州に いっただよ

鉄砲が涙で 光っただ

もずよ寒いと 鳴くがよい

兄さはもっと 寒いだろ

ノーエ(農兵)節

富士の白雪やノーエ 富士の白雪やノーエ

富士のサイサイ 白雪や朝日で溶ける (そりゃ)

とけて流れてノーエ とけて流れてノーエ

とけてサイサイ 流れて三島にそそぐ

三島女郎衆はノーエ　三島女郎衆はノーエ
三島サイサイ　女郎衆はお化粧が長い　（そりゃ）

お化粧長けりゃノーエ　お化粧長けりゃノーエ
お化粧サイサイ　長けりゃお客がこまる

お客こまればノーエ　お客こまればノーエ
お客サイサイ　こまれば石の地蔵さん　（そりゃ）

石の地蔵さんはノーエ　石の地蔵さんはノーエ
石のサイサイ　地蔵さんは頭が丸い

頭丸けりゃノーエ　頭丸けりゃノーエ
頭サイサイ　丸けりゃカラスがとまる　（そりゃ）

カラスとまればノーエ　カラスとまればノーエ
カラスサイサイ　とまれば娘島田

娘島田はノーエ　娘島田はノーエ
娘サイサイ　島田は情でとける　（そりゃ）

とけて流れてノーエ　とけて流れてノーエ
とけてサイサイ　流れて三島にそそぐ

惜別の歌

1. 遠き別れに 耐えかねて
この高殿に 登るかな
悲しむなかれ 我が友よ
旅の衣を ととのえよ
2. 別れと言えば 昔より
この人の世の 常なるを
流るる水を 眺むれば
夢はずかしき 涙かな
3. 君がさやけき 目の色も
君くれないの くちびるも
君がみどりの 黒髪も
またいつか見ん この別れ
4. 君がやさしき なぐさめも
君が楽しき 歌声も
君が心の 琴の音も
またいつか聞かん この別れ

獨協中・高等学校ワンダーフォーゲル部部歌？

作詞・作曲...副部長：石鍋健太

よく「なんで山なんかに登るのか」と聞かれるけど、
アホに説明しても無駄だから適当に答えている。
だけど、本当はお前らに考える事が出来るなら、
こう言ってやりたいんだ。
オマエらに想像できるか、
山に流れる水の色が匂いが、
オマエらに想像できるか
あの頂上の景色が、
こんなに疲れて
こんなに汗かいて
こんなに上まで
こんなに来たのに
上を見れば僕らなんかの手の届かない所に空はある
僕は山で知った
僕らの存在の小ささを
はやくオマエらも気付いてくれ
手遅れになる前に、
でないとこんな歌歌い続けなければならない
さあ行こう。我々と、
我々は、獨協高校ワンダーフォーゲル部

HPに掲載した「山で歌った歌」をまとめました

独協中・高等学校ワンダーフォーゲル部OB会編

2017年3月20日